

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年7月10日

【評価実施概要】

事業所番号	3770103111
法人名	有限会社 國村不動産
事業所名	グループホーム愛の里
所在地	香川県高松市上福岡町2005-11 (電話)087-837-2188

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成19年5月30日

【情報提供票より】(19年4月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成16年5月24日	
ユニット数	2ユニット	利用定員数計 18人
職員数	17人	常勤 13人、非常勤 4人、常勤換算 15.2人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨造り 3階建ての2階 ~ 3階部分
------	------------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000円	その他の経費(月額)	21,000円	
敷金	有()円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250円	昼食	400円
	夕食	450円	おやつ	100円
	または1日当たり 1,200円			

(4)利用者の概要(5月30日現在)

利用者人数	16名	男性	5名	女性	11名
要介護1	4名	要介護2	6名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.8歳	最低	73歳	最高	91歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	ふじさわ医院、阿部内科、まつした歯科、高松厚生クリニック
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム愛の里は3階建ての2・3階にあり、1階には事務所、研修室、高齢者住宅等が設置されており、行事や運営推進会議、研修などに利用されている。事業主は、ホームの創設当初より地域住民と密着した支援活動を目指している。また、職員の資格習得や各種研修会の参加にも協力的であり、職員も資質の向上に積極的である。ホームのスローガンである「家庭的な雰囲気、いつも笑顔とやさしい言葉かけ」の実践にチームケアで取り組んでいる。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題として、業務日誌や個人ファイル等、書式の見直しと洗剤等の収納場所の改善があげられる。書式の見直しについては、情報や記録の重要性と共有化を全職員が認識し、前向きに取り組んでいる。また、洗剤等の収納場所は、所定の場所を設定し保管しており、改善されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>2ユニットが同一の自己評価票であったが、各ユニットで異なった部分もあると思われるので、個別に自己評価票を作成することが望まれる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、行事報告等による運営内容の検討や、災害時の地域住民の協力体制の確立等を討議している。また、後見人制度の勉強会がボランティアの司法書士により実施される予定であり、ホームの安定した運営に取り組んでいる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ホームだよりの発行や連絡ノートの活用で、情報を提供している。また、家族の面会時に意見を聞き、反映するように取り組んでいる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会の行事に参加したり、近隣の喫茶店の協力により、コーヒータイムを定期的に実施している。買い物や散歩に出かけ、地域の住民と交流し、馴染みの関係を深めるよう取り組んでいる。</p>

※  は、重点項目。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム愛の里設立当初より、1階に高齢者住宅の居室や研修室を設置し、「共存共栄」を運営理念に、地域に密着したサービスを念頭に運営している。	○	入居者や地域住民との交流など、多目的にホームを利用し、地域に密着した事業所として、なお一層の取り組みに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は「共存共栄」を理念に、家庭的な雰囲気の中で、いつも笑顔で優しい言葉かけをしている。また、入居者の穏やかな表情から、理念を実践し取り組んでいることが感じられる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭りや行事に参加したり、近隣の喫茶店や食材の買い物に出かける等、地元住民と交流するように努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	パートを含め、全職員がミーティングに参加し、評価の内容や改善点などを具体的に検討し、実践に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会には、市町の担当職員、自治会長等が参加し、意見交換を行い、ホームの資質向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町の担当者とは、運営推進会議以外にも地域の情報収集や相談等を行っている。また、夏祭りには、車椅子やちょうちんを借用する等、協力を得ている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>個別ファイルには、日常の状態が詳細に記載されており、定期的に利用者一人ひとりの状況を、毎月の請求書等と一緒に家族に報告している。また、家族の面会時には、必ず報告するようにしている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会や行事等の機会を捉えて、家族の意見を聞き、運営に反映するように取り組んでいる。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>外出や行事の時などは、ホームの入居者全員が合同で行動しており、ユニット間で協力し合っている。また、ユニット間の職員異動はあるが、この1年間はなく、馴染みの職員が対応している。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業主は、職員の資質向上の必要性を認識しており、職員の資格習得や研修に、積極的に取り組んでいる。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>香川県グループホーム協議会に加入し、研修会等で意見の交換をして、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族と面談し、十分に相談してから入居してもらおうようにしている。また、ホームの行事に参加した後に、入居する方もおられる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と一緒に、ホーム内の季節の飾りつけをしたり、家事やベランダの菜園の手入れをする等、日常生活の中でできることを見つけ出して職員と共に過ごし、支え合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族と話し合ったり、連絡ノートを活用して、嗜好品や趣味等の希望を把握し、取り入れるようにしている。また、個々の生活歴から、本人の意向を取り入れるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当の職員を中心に、介護支援専門員とミーティングを行い、介護計画を作成している。	○	利用者の日々の状態は、業務日誌や個別ファイルに詳細に記載し、職員の熱意ある態勢で取り組んでいるので、今後もより一層、努めて欲しい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状況や問題があると捉えた時には、本人、家族、関係者と話し合い、介護計画を見直し、作成している。	○	目標と期間を設定して記載し、その成果が分かるように工夫する等、今後の介護計画の作成に期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	2ユニットが常時連携して、安定した日常生活が送れるよう、柔軟に支援している。	○	1階には研修室や高齢者住宅が設置されており、ボランティアや行事等に開放して、地域住民に密着した事業所としての取り組んでおり、今後も取り組みが期待される。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前の医療は、状況に応じて本人や家族と相談し、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の要望により、重度化された入居者を、医療機関と連携して支援している。	○	他の入居者の対応を十分に考慮し、チームケアで取り組んでいくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、言葉かけや対応から、個々のプライバシーを損ねないよう配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の要望をできるだけ受け入れ、食事支援の際も、入居者一人ひとりのペースにあわせた対応を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と話し合い、メニューに好みを取り入れるようにしている。食事中は、楽しい話題を交すように心がけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は午後の時間帯に実施し、一人ひとりのペースに合わせて、入ってもらうよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事や菜園などに声かけをして、本人の可能性を見つけ、楽しみにつなげるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日1回、散歩に出かけるように取り組んでいる。また、個別に要望があれば、買い物等に出かけるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室と1階の玄関は施錠していないが、2階、3階のエレベーターは、ボタンを2つ押さなければ利用できない。	○	ボタン1つでエレベーターが利用できるように取り組んでおり、今後期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力のもと、実際に防災備品を使って、避難訓練を実施している。	○	災害時に、自治会等の地域住民の協力が得られるよう、今後も運営推進委員会で取り組んで欲しい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によりメニューを作成している。また、食事や水分の摂取量を把握し、支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓際にソファが置かれ、ゆったりとくつろぐことができる。また、手作りの作品や季節の生花を生ける等、家庭的な雰囲気である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅から家具や調度品が持ち込まれ、カレンダーや手作りの作品等が飾られ、その人らしく工夫されている。		